

# 大学関西フォーラム 第6回シンポジウム

全国高等学校進路指導協議会事務局長  
千葉 吉裕氏



東京理科大学理学部理学修士課程修了。都高校進路指導協議会進路学習研究部長などを経て04年から現職。東京都立晴海総合高校教諭・キャリアカウンセラー。

河合文化教育研究所主任研究員  
丹羽 健夫氏



名古屋大経済学部卒。河合塾理事、同進学教育本部長、同全国進学情報センター所長などを歴任。専門は教育・キャリア形成。名古屋外国語大理事。

関西大学長  
河田 悌一氏



大阪外国語大中国語学科卒。和歌山大助教授を経て関西大教授。同国際交流センター所長、同文学部部長、同副学長、03年から現職。専門は中国思想史。

広島大学長  
牟田 泰三氏



東京大数物系研究科博士課程修了。京都大基礎物理学研究所助教授などを経て広島大教授。同理学部部長、同副学長、01年から現職。専門は素粒子論。



真剣な表情でパネリストの話聞く参加者ら(大阪市内のホテルで)

# 問われる基礎学力

## センター試験

傍島 大学入試センター試験の今後の役割はどうか。  
丹羽 基礎学力を見ることが、点では、必要性は変わらないが、これだけで終わるのは非常に危険だ。予備校で見ていると、自

分て答えをつくるのではなく、答えを選ぶ試験が始まってから生徒ががらりと変わった。センター試験だけで合否を決める私立大があるが、記述式の試験や面接などを加えなければ、まず

いという感じがする。  
千葉 私立大は一般入試も、センター利用が非常に増えている。これからはAOと推薦とともにも、センター利用が入試の中心にならざるを得ないと思う。高校生にとっては教科書を基本にした勉強でよくなり、他の活動ができるゆとりができる。

中嶋 今年度から英語リスニング試験が導入されるなど、全般的に改善されてきている。センター試験を課さずに、例えば小論文だけにした場合、どうしても採点者によって、点数のぶれが出てくる。やはり、個別試験とセンター試験をうまく併用していくのがいいと思う。

牟田 一般入試だけを推し進めていく限り、センター試験の存在価値は薄れていくのではないかと。AO入試が今後、量、質とも拡大していく可能性は非常に高い。基礎学力を見ずにAO入試をやるのは非常に危険。その意味でセンター試験はなくてはならないと考えている。

## 目頭 兎元 三三三

入試の最新動向を調べる  
と、受験生の目的意識が明確になり、大学の中身をよく見ている。大学は場当たり的な受験生集めでなく、入学後に満足できる教育内容を提供できる

満足できる中身を提供  
オープンキャンパスも年々盛んになり、広島大では今夏、過去最多の1万2000人が来校した。見学に来た高校生

大学入試を取り巻く状況は3点ある。まずは、18歳人口の減少。続いて4年制私立大学の増加。似たり寄ったりだった国立大は減少しつつ、特色を出してきている。私立大にと

大阪外国語大中国語学科卒。和歌山大助教授を経て関西大教授。同国際交流センター所長、同文学部部長、同副学長、03年から現職。専門は中国思想史。

私立大学の一般選抜入学者はセンター入試も含めて全入学者の50%。逆に言うとAO入試や推薦による入学者は半分になってい

4割の私立大学が定員割れをしているが、果たして本当に入試が必要なのか、根本的なことを考えなければなら

東京理科大学理学部理学修士課程修了。都高校進路指導協議会進路学習研究部長などを経て04年から現職。東京都立晴海総合高校教諭・キャリアカウンセラー。

「学長と話そう」と誘うと積極的に参加する。志望理由を尋ねると、「教員養成が優れているので高校教員になり

オープンキャンパスも年々盛んになり、広島大では今夏、過去最多の1万2000人が来校した。見学に来た高校生

また、高校の変化も大きい。土曜が休みになり、03年から教育内容の緩和という形で、新指導要領が始まり、必須科

科学的な時代になり、高校を卒業して働かなくても「あと

科学的な時代になり、高校を卒業して働かなくても「あと

科学的な時代になり、高校を卒業して働かなくても「あと

科学的な時代になり、高校を卒業して働かなくても「あと

試験の成績を理由にするなど、消極的だったのに比べ、大きく様変わりした。

重点地域で受験生や父母と「コミュニケーションを図ることも非常に大事で、出先機関と

入試方法にも工夫を凝らしている。特にAO入試を重視しており、3種類を実施している。夏休みの高校生約60人に模擬授業を行う「セミナー入試」は、大学教員も力の限りを尽くして講義する。中間試験などの評価を受験と見なし、10人ほどの合格者を決めていく。今年4月からは、到達目標を明確にした教育プログラムも始めている。

4年間遊んでもいい」という人たちが大学に來た。大学としては、品格ある人間を育てるために、基礎教育に力を入れ、生き残らなければなら

関西では学生の半数以上を一般入試などで選ぶ。スポーツ、文化活動などに秀でた学生がいると活性化するので、指定校、AO入

入学後の教育を考えれば、基礎学力を見なければいけません。何よりも入試問題は最大の広報媒体だ。受験生は問題を見て、どういう大学が自分に合うのかを見て

入学試験で大学自身が収益を上げるという構造がそこにはないだろうか。産学連携など、大学はこれまでとは違ったところから収入を得るようにならないといけないと思う。保護者や生徒を見ていると、入学する大学を早く決めるのは、お金の問題もあることを理解していただきたい。

入試方法にも工夫を凝らしている。特にAO入試を重視しており、3種類を実施している。夏休みの高校生約60人に模擬授業を行う「セミナー入試」は、大学教員も力の限りを尽くして講義する。中間試験などの評価を受験と見なし、10人ほどの合格者を決めていく。今年4月からは、到達目標を明確にした教育プログラムも始めている。

関西では学生の半数以上を一般入試などで選ぶ。スポーツ、文化活動などに秀でた学生がいると活性化するので、指定校、AO入

入学後の教育を考えれば、基礎学力を見なければいけません。何よりも入試問題は最大の広報媒体だ。受験生は問題を見て、どういう大学が自分に合うのかを見て

入学試験で大学自身が収益を上げるという構造がそこにはないだろうか。産学連携など、大学はこれまでとは違ったところから収入を得るようにならないといけないと思う。保護者や生徒を見ていると、入学する大学を早く決めるのは、お金の問題もあることを理解していただきたい。

入学試験で大学自身が収益を上げるという構造がそこにはないだろうか。産学連携など、大学はこれまでとは違ったところから収入を得るようにならないといけないと思う。保護者や生徒を見ていると、入学する大学を早く決めるのは、お金の問題もあることを理解していただきたい。

入学試験で大学自身が収益を上げるという構造がそこにはないだろうか。産学連携など、大学はこれまでとは違ったところから収入を得るようにならないといけないと思う。保護者や生徒を見ていると、入学する大学を早く決めるのは、お金の問題もあることを理解していただきたい。

## 付加価値つける教育重視

## AO選抜に全力投球を

## 重い受験料、家計に負担

入学試験で大学自身が収益を上げるという構造がそこにはないだろうか。産学連携など、大学はこれまでとは違ったところから収入を得るようにならないといけないと思う。保護者や生徒を見ていると、入学する大学を早く決めるのは、お金の問題もあることを理解していただきたい。

# 全入時代の大学入試を考える

読売新聞大阪本社が2001年に設立した「大学関西フォーラム」の第6回シンポジウム「全入時代の大学入試を考える」(後援・大学コンソーシアム京都、大学コンソーシアム大阪、ひょうご大学連携推進機構、奈良県大学連合、京滋地区私立大学学長懇談会)が9月29日、大阪市北区のヒルトン大阪で開かれた。中嶋嶺雄・国際教養大学理事長・学長が基調講演で「秋入学や合格点に満たなくても暫定的に学生を受け入れる制度を導入。きめ細かい受験政策を実行することによって優秀な学生が集まった」と取り組みを紹介。パネルディスカッションでは、中嶋学長も含めた教育関係者5人が全入時代の入試と教育の在り方、多様化する入試などをテーマに活発な議論を交わした。会場には大学、短大の学長や理事長、市民ら250人が集まり、メモを取るなど熱心に聞き入った。

2004年に国際教養大学を秋田に設立した。「国際教養」は、グローバル化の時代に備えた新しい概念。最近の大学は国際教養ブームになっているが、そのさきがけとなった。わが国の大学は1991年前後から教養教育が制度的になくなった。教養教育の重要な部分に外国語教育がある。だが、日本の外国語教育はどうか。外国語はコミュニケーションの道具なのに中学から大学までの10年間学んでも、ほとんど使えない。全く意味がないし、知的損失だ。東京外国語大の学長時代、英語教育の改革に取り組んだが、何も変わらなかった。抜本的改革をしないと、グローバル化に対応する教育は成り立たない。

国際教養大学理事長・学長

なかじま みねお  
中嶋 嶺雄氏



東京外国語大中国科卒。東京大社会学研究科博士課程修了。東京外国語大教授、1995年から2001年まで同学長。文部科学省中央教育審議会委員。専門は国際関係論、現代中国学。

## 基調講演

# 国際化に対応の教育実践

まずは、外国語能力。国際教養大では、すべての授業を英語で行う。入学後の英語集

まず、外国語能力。国際教養大では、すべての授業を英語で行う。入学後の英語集

音楽は約10人のクラスで、バロックから現代まで、演奏家が実際にバイオリンを弾き、

学生は少人数制で、1学年の定員は130人。1年生と留学生は全員が寮生活を送る。若い人は寮を嫌うと思っ

入試は国公立前・後期日程とずらし、A、B、Cの3日程とした。秋入学も採り入れた。高校の留学生は6月ごろ帰国し、入学まで半年待たねばならなかった。AO(アドミッ

要なのか。道具として使える英語を教えないと、今後の社会で生きていけない。



老川社長あいつ

国立大学の法人化や大学再編、少子化に伴う大学全入時代の到来による入試や大学経営への影響などについて、様々な角度から考えようと、読売新聞が大学関西フォーラムを創設したのは5年前でした。今これらの課題は現実のものとなっていてます。数字の上では入学志望者と定員数がびったり一致する大学全入時代が来年も訪れます。各大学では入学者確保のため、多様な入試を行っています。が、マイナス面も指摘されています。今回は、大学全入時代における入試とそこから派生する高校などの教育のあり方について、考えていきたいと思います。

傍島 全入時代に求められる教育や入試とは何か。牟田 学生のレベルはトップ集団では20年前とあまり変化はないが、中間レベル以下の層が増えている。昔ながらの教育ではトップ集団しか伸ばせず、大学の責任を果たせない。到達目標型教育プログラムは、卒業時に身につけるべき実力の目標を示し、その目標に導くための教育を行う。入学時の学力レベルに関係なく、卒業時は学生一人ひとりが目標をクリアできる教育を目指している。河田 私立大では付属や関連の高校から入学者を確保し、一

般入試の定員は絞って受験偏差値を維持しているケースも多い。少子化のなかでもやはり、偏差値的に優れた学生も一定人数集めたいという思いがある。一方、推薦入試や、書類審査や面接、集団討論などで受験生を総合的に評価するAO入試も増えている。入学が早期に決まるため、春までの入学前教育が大切だ。関大ではインターネットを利用した「eラーニング」も活用している。傍島 入学者の「質」と「量」を両立させるのが難しいと言われている。丹羽 「質」が、偏差値に表

## 教育・入試

## パネルディスカッション

される教科学力だけを意味するなら非常に問題だ。大学入は一般的に、教科学力以外の能力を知らないか、関心を持たない。それに気づかないと、大学は大変なことになる。若者の魂を揺さぶる授業をするなど「人づくりに」をしてほしい。大学人が新しい「質」を求め、つくってい

くことが重要ではないか。牟田 一般入試がほとんど見ても生徒は伸びない。自ら学ぶ意欲と態度と方法を教えることが高校の役割になる。受験でしか使わない知識を教えることからは脱皮しないと、高校にも危機が訪れるだろう。ただ、生きる

## 推薦・AO入試

傍島 推薦、AO入試の増加をどう考えるか。河田 多様な学生を受け入れることは大学に活力を与える。特に私立大では必要なことだ。ぜひ関大に、という学生を選び、きちんと教育し付加価値をつけて卒業させている。丹羽 ある大学で教えた時、AO入試で入学した学生のレポートは非常にユニークで、一般入試の学生には見られない発想だと思った。AO担当者は「もう嫌だ」と言うくらい努力していた。一方、別の大学ではAO入学者に特徴はなかった。担当の先生に聞くと、「AO?別にどうってことないよ」と言う。AOは大学側が努力をすれば、

必ず成果が出てくる。牟田 18歳人口が減少する中で人材を最大限に活用するには、いわゆる優等生ではないが、特異な才能を持った学生を受け入れ、有為な人材として社会に送り出すことは大事で、そこで大学の個性も出せる。ただ、優れたAO入試をやっても、受験産業は大学を一般入試の偏差値で位置づける。AOの方法をきちんと評価してくれば、広島大などはもっと上の方向に行くと勝手に考えている。

# 新たな選考基準を

牟田氏 才能持つ人 社会へ輩出

河田氏 多様な学生 大学に活力

丹羽氏 魂揺さぶる 授業追求を

千葉氏 自学の精神 高校で指導

め、判定も専門的にできる。また、暫定入学制度がある。せっかく入学を希望してくれているのに、わずかな差で不合格にするのはつらい。それを科目履修生として受け入れ、1年後に条件を満たせば、正規の学生に登録する。私自身、国立大の学長のころは予備校や高校を回ることはなかった。だが、今では県内の高校ばかりか、東京や大阪の塾の会合にも出ている。自ら広告塔となり、受験指導もしている。その結果、入試の難易度も高くなり、トップレベルになった。入学後は学生一人ひとりに対するケアが全く違い、付加価値がつく。卒業時に全員が英語能力試験TOEFLで600点以上を目指す。こういう形で新しい大学作りをしている。